

令和6年度「一般選抜後期日程試験（個別学力検査・小論文）」講評

後期小論文課題における出題の意図

本学が掲げる「求める学生像」（アドミッション・ポリシー）のうち、「英語のコミュニケーション能力のさらなる向上とともに、異文化に対する理解力や対応力の習得に意欲を持つ人」（下線部分）、「幅広い教養を積極的に吸収するとともに、言語・文化、メディア・コミュニケーションや国際政治経済に関する専門分野をきわめたい人」をふまえた小論文課題を課した。石田光規著『「友だち」から自由になる』（光文社新書 2022 年）の一部を用い、受験生の考えを問うた。

提示した資料では、大きく二つの論点が示されている。第一に、友人関係をとらえる上で、「形から入る友人」、「結果としての友人」という二つの視点が示されている。いずれかが「良い/悪い」ではなく、友人関係の性質の違いに注目し、説明がなされている。第二に、現代社会は「友だち」を過剰に意識させやすいため、今後どのような人間関係を築いていけばよいのかについて、筆者の考え方が示されている。

課題1では、友人関係の二つの視点の特徴を踏まえた上で、受験者自身の「友だち」関係を整理するよう求めた。受験生にとって身近な存在である「友だち」を俯瞰的な視点でとらえるための知識・思考をテキストから正確に読み取り、テキストで示された視点をを用いて自らの「友だち」関係を適切に表現する力を身につけているかどうかを問うものである。課題2では、筆者が提示した人間関係の築き方についてテキストから正確に読み取り、筆者の考え方について批判的に思考し、自らの考え方を適切に表現する力を身につけているかを問うものである。仮に筆者とは異なる考え方であっても、頭ごなしに否定するのではなく、建設的に「違い」と向き合っているかも問うている。

課題1の評価ポイント

課題1では、「形から入る友人」、「結果としての友人」の特徴を適切に把握し、その特徴を用いて自らの「友だち」関係を適切に整理できるかどうかを評価した。この二つの関係で整理できなくとも、本文の内容をふまえた整理であれば評価している。評価のポイントは、友人の特徴を端的に説明し、自らの経験に即して「友だち」関係を整理できているかどうかである。

課題2の評価ポイント

課題2では、「知り合い」で統一することで「友だち」から自由になる、という筆者の考え方について、四つの立場のいずれかを選択し、理由も含めて適切に記述できているかどうかを評価した。どの立場を選択しても、自らの経験や知識に即して記述することが評価のポイントとなる。

課題1、2ともに筆者の説明をそのまま書いただけのもの、課題に応答していないものは評価のポイントから外れている。また、減点になるわけではないが、「～ではないだろうか」といった表現が散見された。シンプルに「～である/～ではない」と記述する方が読みやすい上、字数も要さないのので、端的に表現する力を磨いてほしい。